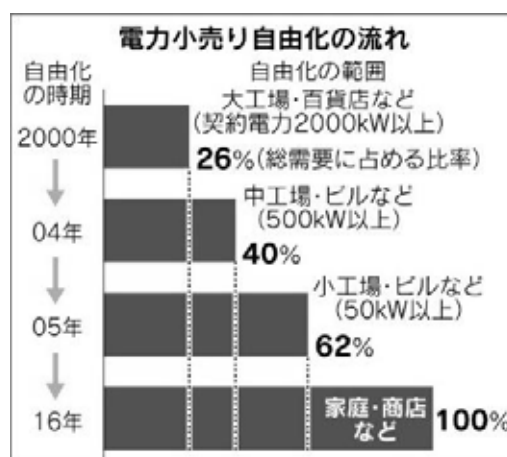


電力の自由化に向けて安穩とはしてられない

2000 年から始まった電力小売り自由化は、右図のように、来年度、家庭・商店などが自由化されると自由化度 100%になります。電気を選べるようになれば再生可能エネルギーを買いたいと思っておられる方はたくさんいらっしゃるでしょうね。そのような市民の願いを受けて“POWER SHIFT デンキエラベル 2016” (<http://power-shift.org/>) というサイトが立ち上がりました。ご覧ください。



自由化の結果、2014 年には、四国・沖縄を除く 8 電力の合計で原発 3 基に当たる 300 万 kW が新電力に移ったそうです。関電の場合も値上げすることに契約が新電力に流れ、累計 250 万 kW になっているとか(2015/1/25 読売新聞)。

一方業界も黙ってはいません。原発は安いというコスト神話が崩れた現在、経産省に数多くの委員会が設置され、次々に原発優遇策が検討されているそうです。4月19日の「電力自由化と脱原発を考えるつどい」で長沢啓行さんの総合的かつ綿密なお話を聞いて、これは熾烈な戦いだ、やられたら大変だ、と実感しました。

政府は 2014 年にエネルギー基本計画を閣議決定し、それまでの「脱原発依存」を無効にして、原発を「重要なベースロード電源」と位置付けました。昨年の再生可能エネルギー買い取り拒否から始まった一連の動きは記憶に新しいところですが、それも原発ありきの計算から始まっています。

経産省は、原子力・石炭火力・水力・地熱をベースロード電源とし、その比率を現行の 40%から、2010 年の 60%に戻そうとしています。国際的には下げる傾向にあり、ヨーロッパでは再生可能エネルギーがベースロード電源だと考えられています。最新技術を駆使して需給調整すればベースロード電源という考え方そのものが時代遅れだとの意見もあるくらいです。日本は完全に逆行しています。しかも、温暖化対策として CO2 を減らそうとすれば原子力を増やさなければならないような仕掛けを作っているのです。

ドイツでは固定価格買い取り制度のせいで電気代が上がったと日本で宣伝されていますが、実はドイツ（買い取り価格が日本の 2 倍）では 2005 年にピークになりましたが、その後電気代は下がっています。太陽光発電システムの設置費用が下がって自立してきたわけです。

現在経産省が「長期エネルギー受給見通し(エネルギーミックス)」に関する意見を募集しています。みなさま、意見を出しませんか？私たちの声を政府に届けましょう！

<http://www.enecho.meti.go.jp/notice/topics/O31/>

原発のない、再生可能エネルギーの未来こそが日本を救います。

(なかがわ)

お知らせ

■連続市民講座 第23期 地球環境大学 5月スタート

テーマ「地球温暖化、エネルギーの未来を考える」CASA 地球環境大学

第1回 「肌で感じる温暖化、科学の視点から見ると」

5月18日(月) 13:30~16:30 大阪歴史博物館第一研修室

参加費 CASA 会員 500 円、一般 1000 円

要申込 <http://www.bnet.jp/casa/2/12.html>

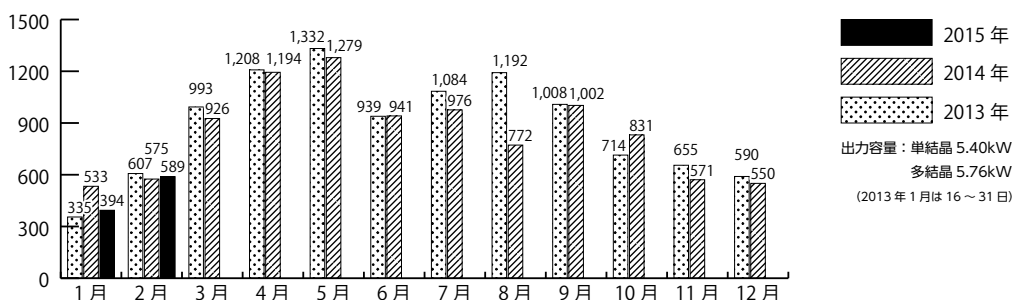
御礼

「宝塚すみれ発電所第4号」建設のため「共感寄付第一期」にご協力くださいました。まことにありがとうございました。二千元から十万円まで、たくさんのお心こもった振込を頂戴いたしました。感謝感激、心より御礼申し上げます。

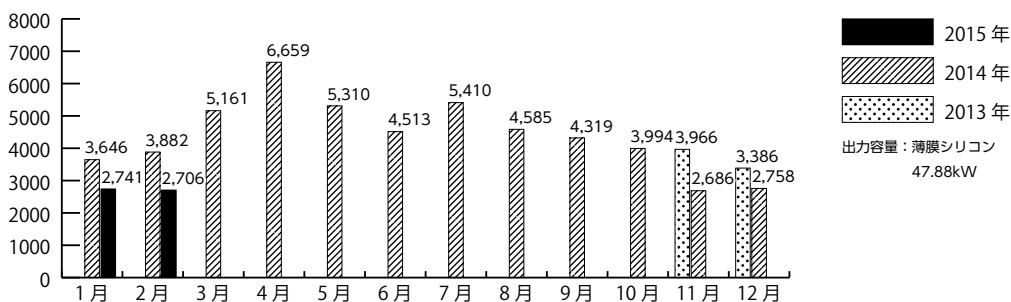
引き続き「共感寄付第二期」にも採択されました。「宝塚すみれ発電所第4号」は今夏建設予定です。次号ニュースに振込案内を同封いたしますので、みなさま、今後とも市民発電所の建設にご協力のほど、よろしくお願い申し上げます！ (なかがわ)



宝塚すみれ発電所 第1号 発電実績



宝塚すみれ発電所 第2号 発電実績



宝塚すみれ発電所 第3号 発電実績

